



育苗期前半は寒暖の差が大きく、やや不揃いの苗となっています。温度管理に注意し、充実の良い苗づくりを行いましょ！

育苗前半は寒暖の差が大きく、無加温の場合は出芽不揃いが多く、苗の生育もやや不揃いとなっています。4月30日に山形地方気象台より低温に関する気象情報が発表され、今後5月7日まで気温の低い状態が続く見込みです。

下表の温度を参考に、充実のよい、がっちりとした苗づくりをしましょう！

本田の耕起作業も平年並みに始まりました。ゆとりのある作業計画で、本年も農作業事故ゼロを目指しましょう。

苗代管理の注意点



～ 温度が上がり過ぎないように注意 ～

- 1 温度管理の目安は以下のとおりです。

	昼 間	夜 間	水管理
1.5葉期以降	20～25	8 以上	午前中にたっぷり1回かん水する。夕方からのかん水は根張り不良となるため避けましょ。

- 2 田植え1週間前から荒天や遅霜の心配がない限り、夜間もハウスやトンネルを開け、苗を徐々に外気に慣らしましょ。
- 3 プール育苗では、1.5葉期頃から、ハウスを開放し湛水します（箱上1～2cm、低温時は、苗丈の半分位が目安）。また、水温に注意することを忘れず、管理しましょ。

【東北地方 1か月予報】

4月27日～5月26日

<気温の予報>

4/27～5/3 : 低い確立60%

5/4～5/10 : 平年並の確立40%

5/11～5/24 : 平年並の確立40%

育苗時における追肥の注意点



～ 肥料の特性をしっかりと把握すること ～

- 1 苗種別の追肥時期の目安は以下のとおりです。

	1.5～2.0葉	2.3～2.5葉	2.8～3.0葉
稚 苗 (田植え時の葉齢：2.2～2.5葉)		() 葉色を見て	-
中 苗 (田植え時の葉齢：3.2～3.5葉)		-	

- 2 床土に育苗一発肥料を使用した場合、追肥は省略できます。
- 3 追肥の量（100箱あたり）、使い方は次のとおりです。

【液肥2号（N:P:K=10%:4%:8%）】

500ccを50の水に溶かして（100倍）、全量を均一に施用します。

【硫安（N:P:K=21%:-:-）】

500gを30の水に溶かして、施用します。肥料焼けを防止するため、追肥後はただちに葉に水をかけて、肥料を洗い流します。

- 4 プール育苗で液肥により追肥をする場合は、濃度障害を防ぐために1～2日後に排水します。

育苗期間中の病害対策



～ 病原菌とその症状をよく把握すること ～

主な病原菌の症状と、発生抑制のためのポイントは以下のとおりです。

病原菌	主な症状	主な原因	発生抑制のポイント等	
苗立枯病	リソプス	種子、芽の周囲に白いカビが発生。根の褐変。葉の黄化。	出芽時の高温多湿。	33 以上の高温、多湿にしない。
	フザリウム	白色～淡紅色のカビが発生。	緑化期の低温。湿度の変動が大きい場合。	低温をさげ、適切な温度を保つ。
	ピシウム	カビは見えない。出芽後の芽、根の枯死やムレ苗が発生。		
	トリコデルマ	芽の周囲に淡緑色のカビが発生。	汚染度の高い資材を使用した場合。床土の乾燥。	過乾燥にならないよう注意する。
苗立枯細菌病	第2葉の葉身基部が黄白化、坪枯れ。	高温多湿。効果のない薬剤の選択。	高温多湿にしない。発生した場合は苗を処分する。(発生後、薬剤防除不可)	

土づくり・耕起のポイント



～ 積極的な土づくりで良食味生産を目指しましょう ～

- 1 土づくり肥料の中でも、特にケイ酸資材が気象の変化に負けない稲づくりに重要です。ケイ酸施用は、根の活力維持、登熟能力の向上、いもち病抵抗性の向上などの効果が期待できます。積極的に施用しましょう。(ケイカル120kg/10a)
- 2 近年、PHの低い水田土壌が見られます。適正なPHは5.5～6.5ですので、酸度矯正を行い、肥料養分の吸収阻害などを防ぎましょう。
- 3 養分の供給力増加や、登熟不良・品質低下軽減のために、耕土深15cmを目標に、耕起を行いましょう。

品種に応じた基肥量がポイント



～ 品種の特性にあった基肥量は、良食味米づくりに欠かせません ～

品種別の基肥量は以下のとおりです。

品種名	窒素成分量 (kg/10a)
はえぬき	5～6
コシヒカリ	3～4
つや姫	3～4
	地力の低い所では1kgを上限に増量
ひとめぼれ	4～5
あきたこまち	5～6
ヒメノモチ	5～6
酒米	4

【初期生育の確保が難しいほ場では・・・】

基肥量の一部を活着期追肥として実施する。目安は、2kg/10a。

トラクターの「ほ場からの退出は慎重に！」
春の農作業安全運動展開中！

